

～ All for one, One for all. ～

ヨハネ第一の手紙
第四章 十五節～十六節

もし人が、イエスを神の子と告白すれば、神はその人のうちにいまし、その人は神のうちにいるのである。

わたしたちは、神がわたしたちに対して持つておられる愛を知り、かつ信じている。神は愛である。愛のうちにいる者は、神におり、神も彼にいます。



光の家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 214号 —

2021年11月1日発行



～光バンド～ 2021 愛のサウンドフェスティバル (ひの煉瓦ホール - 日野市民会館 -)

巻頭言

冷気一段と強まり、いよいよ秋も深まって参りました。

今年はオリンピック・パラリンピックの年として光の家も応援活動を行って参りました。

今月号でもその様子を掲載しております。また、音楽を通して光バンドによる演奏活動もパラリンピックの理念である「共生社会の実現」に通じるものがあると思っております。

今回の外部寄稿では山下評議員による障害のある方の「意志決定支援」についてなかなか意思決定の難しい利用者を人として大切に、安易に代理決定しないで、本人の意思を確認する努力をしていくという事でした。

このことは光の家の職員の倫理綱領に掲げている「個人の尊厳」を守る事と同じであり、光の家の基本方針にある「愛と奉仕の心で誠実な業務」を心掛けていきたいと思っております。

(理事長 石渡 健太郎)

意志決定支援

評議員 山下 望



山下評議員

令和三年度の日本知的障害者福祉協会の全国施設長会のテーマは、「障害のある方の望む暮らしの実現に向けて」でした。東京光の家の利用者の皆さんの望む暮らしって何でしょう。この「意志決定支援」をキーワードに一緒に考えていきましょう。私は、日本知的障害者福祉協会の傘下である東京都発達障害支援協会の理事長をさせていただいています。題名に書かせていただいた「意志決定支援」は、東京都内の

障害関係6団体で毎年開いている「東京大集会」において障害者自立支援法から障害者総合支援法への移行時、国連の障害者権利条約の影響もあり、身体障害者を中心に「自分のことは自分で決めたい。」との声が大きくなり、知的障害者を中心に「自分のことを自分で決める」ことが難しい人への支援が必要であろうと言うこととなり、この「意志決定支援」という言葉が生まれたのです。言葉を生んだだけで無く、2012年の障害者総合支援法に変わるところでこの「意志決定支援」を法文の中に、この言葉、この考え方を入れ込んでいきました。障害者基本法にも知的障害者福祉法にも入れ込むことが出来ました。一般的に、意思決定支援と

は「自己決定の尊重であること」を前提として、自ら意思を決定することが困難な障害者に対する支援（厚生労働省、2017）であります。これは、当事者の自己決定を尊重しつつ本人にとっての最善の利益（Best Interests）を追求する実践です。支援者の立場で置き換えますと、障害者の状況や決定の内容、環境等の複雑な個別性に鑑みて「ベストな意思決定支援とは何か」を問いつける営みであると言えます。よう。（東洋大学大学院・佐橋拓也氏）とまとめられています。この考え方が、今、知的障害者を中心とした意志決定の難しい人たちの幸せの実現へのメインストリウムになってきています。「ベストインタレスト」の考え方は、元々、イギリスの意思能力法（2005年）の中で謳われてきたことではあります。イギリスでは、「代理決定」として取り扱われて

きました。私たちの言う意志決定支援で言う「ベストインタレスト」は、障害当事者本人の意思を大事にし、代理決定では無い形で実現して行くことを求めています。

まずは、「ご本人との信頼関係を結ぶ。」「いろいろな体験をしてもらう。」「楽しいことも、少し大変だったけれどがんばったことも大切です。いろいろな物を食べてみる。」「なかなか、現在の福祉サービスでは難しい部分もあるかもしれないが、支援者と一緒に食べて「おいしいね」とか、「すっぱいね」「あまいね」と話しかけることで、自分が望むものは何かもわかってくると思います。そして、支援者が日常の中で大事にしなければいけないことは、障害当事者の方を人として大切に、安易に代理決定しないで、利用者の活動や生活の場面で、本人の意思を確認する努力では無いでしょうか。

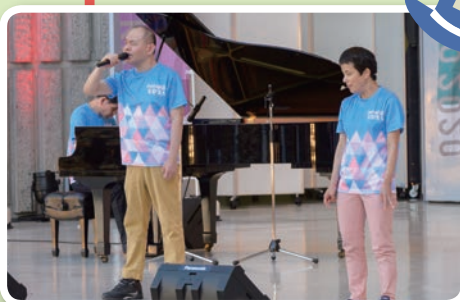
2020 東京オリンピック・パラリンピック特集

今年、大きな感動を与えてくれた東京オリンピック・パラリンピックですが、聖火リレー以外にも、様々な形で、光の家の利用者が参加する機会がありました。

日野市がホストタウンとなったウクライナのオリンピック空手代表チームの練習会場を訪れ、見学と応援をさせて頂きました。

7月23日（金）の東京オリンピックの開会式当日には、日比谷野外音楽堂で開催された東京都主催の応援イベントで光バンドの代表メンバー4名が演奏を披露、また8月22日（日）には、パラリンピック採火式が、光の家の近隣の旭が丘中央公園で行われ、採火後は東京光の家講堂にて、「パラリンピック聖火ビジット」が開催されました。

●日比谷野外音楽堂演奏 7月23日（金）



●ウクライナ空手応援見学 7月30日（金）



●パラリンピック採火式・聖火ビジット 8月22日（日）



HIKARI BAND CHARITY CONCERT 2021



2021 愛のサウンドフェスティバル

αγάπη
—アガペー—

すべての人に 愛を

2021.9.18 SAT ひの煉瓦ホール [日野市民会館]





光バンド

「愛のサウンドフェスティバル」 実施のご報告

今年度の愛のサウンドフェスティバルは、サブタイトルを「すべての人に愛（アガペー）」と題し、二年ぶりにひの煉瓦ホール（日野市民会館）にて開催いたしました。

コロナウィルス感染拡大対策として、定員の半分程度の席数で、会館への入場の際しても、お客様全員に検温と消毒の実施、入場者全員の連絡先の登録を頂きました。

公演内容は、第一部を、オリンピック・パラリンピックをテーマにし、第二部を、すべての人に愛を届けるということで、愛の賛歌の曲目で構成しました。

会場には、日野市の大坪市長も駆けつけてくださり、お祝いの言葉を頂戴することができました。

愛のサウンド後援会の皆様をはじめ、関係者の皆様の多大なご協力のお陰で、昨年に引き続きコロナ禍の演奏会を安全に盛大にやり遂げることができました。東京光の家職員一同、心より感謝申し上げます。

第44回

チャリティーバザー

一〇月八日(金) 利用者向け販売
一〇月一〇日(日) 一般向け販売

会場：旧伊勢丹倉庫



新型コロナウイルスの猛威が収まっていないうちではありましたが、今年もチャリティーバザーを開催させて頂きました。

昨年同様、会場は旧伊勢丹倉庫を使用、光の家の利用者と一般のお客様の利用日を分けるといった感染拡大対策は引き続き実施しました。また入場者の人数制限や検温、消毒についても昨年同様に徹底しての開催となりました。

今年は昨年度よりフードメ

ニューも大幅に拡充、隣接するレストラン「カン」も、定休日の座席を開放するなど、買い物だけでなく、買い物の合間や買い物後に軽食や喫茶を楽しんで頂



バザー会場前の行列



記帳の様子



検温・消毒の様子



バザー会場



模擬店の様子

けるよう工夫を凝らしました。
一般向け販売後も、一週間の間、「ガレージセール」と銘打って引き続き販売を行い、多くのお客様にご来場頂きました。
お陰様で、目標としていた売上げ四〇〇万円を達成することができました。
ありがとうございました。



利用者・職員による献花

夏の暑さもようやく落ち着き始めた九月中旬に、東京光の家墓地において田中先生夫妻を始め六十八名の故人を偲ぶ会が行われました。
台風の影響も心配される中、当日は晴天にも恵まれ、各施設代表の利用者・職員が故人を偲びました。

令和二年度墓参

(田中先生夫妻を偲ぶ会)

令和三年九月二十二日(水)

光の家 一泊旅行と外出行事

光の家の各施設において、日帰りの外出行事や一泊旅行がそれぞれ実施されています。昨今の新型コロナウイルスの状況に十分配慮し、三密の回避や消毒、食事の際の留意等、利用者と職員が一緒になって、努力と工夫を凝らして行われています。

一泊旅行も計画されています。新生園では一泊旅行として三浦半島に行っています。久しぶりの仲間同士の旅行は、最良の思い出に繋がり、秋の旅情を満喫することができました。栄光園は熱海に一泊で出かけ、温泉施設でのんびり過ごしています。こちらに参加しなかった方は、浅草に日帰りで出かける機会も設けています。

就労ホームにおいては奥多摩



神愛園：子牛に触れる利用者



新生園：ペンギンの前でピース！



就労ホーム：奥多摩の大自然を満喫!!



栄光園：ミカン狩り楽しいなあ～

に出かけています。秋のひと時、自然の空気に触れることで、コロナ禍のストレスから解放される、最良の機会となりました。

安心と安全と希望。生活には喜びを。この目標を成していけるような行事を今後も企画していきたいと思っています。

寄付者名簿

令和三年七月二十八日

令和三年十月二十六日

土屋 いち子様 かぼちゃ

米倉 清治様 米 一〇kg

井川 寿美江様 雑巾 五〇枚

齋藤 登喜子様 布マスク 八十三枚

鈴木 京子様 さつまいも 八kg

島田 英樹様 梨 十五kg

中村 修土様 醤油 六本

佐藤 しげ井様 枝豆 四・五kg

船橋 敬様 ベーコン 十一・五kg

井川 幸雄様 梨 四十八個

宮洞 真様 梨 三〇個

坂本 武様 かぼす 五十五個

浅石 常勝様 米 三〇kg

養護老人ホームひとみ園 園長

茂木 幹央様 りんご 十四個

第三六回 東京都障害者総合美術展



新型コロナウイルスの感染状況が拡大を見せ、収束が見通せない中でしたが、今年度も東京都障害者総合美術展が行われ、新生園から出展した陶芸の作品三点が見事に入選することができました。



入選者 3 名で喜びのピース!!

昨年度同様、写真での審査となりましたが、粘土を団子型、紐型、サイコロ型に整形し、積み重ねたり、捻らせたりして三名それぞれの想いが詰まった作品となりました。今回は入選でしたが、来年はさらに良い賞を目指して頑張ります。



石井正也さん作
「旅行の思い出」



清水峰男さん作
「昇り龍」



市役所にてエコバッグの贈呈式が行われました

「SDGs 未来都市」でもある日野市内の NPO 法人、市民サポートセンター日野が、新聞紙を使ったエコバッグを作って市内の方に使って頂こうというプロジェクトに就労ホームも微力ながら参加しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 12 つくば未来 未来都市

光の家SDGs活動

日野菜しんぶん紙

エコバッグ製作



日野菜しんぶん紙エコバッグプロジェクトのポスター

センター日野・日野菜キッチンカフェ事業は、コロナ後の日野で暮らすエシカルライフに着目し、SDGs 未来都市である日野市での身近な SDGs 普及を図っているそうです。

地域の方々、小学校、福祉作業所などで製作されたエコバッグは、七ツ塚ファーマーズセンターさんの手によって栄町のお店や、市内をめぐるキッチンカーで配布されています。就労ホームで作ったバッグも、きつとどこかで役立っていることと思います。

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

発行 行 一九一〇〇六五
東京日野菜市旭が丘一七七一七
社会福祉法人 東京 光 の家
電話 〇四二(五八二)二三四〇
FAX 〇四二(五八二)九五六八